

【シンポジウム：サラワクから見るマレーシア研究】

コメント

Sarawak for Sarawakians

石川 登

今回のシンポジウムのテーマは「サラワクから見るマレーシア」ですが、第二部<sup>1</sup>は「マレーシアの中のサラワク」と題されています。この言葉に触発されて私が考えたこといくつかと最近サラワクで見聞きしたことをご紹介してコメントに代えたいと思います。

マレーシアという国家機構 (state) のなかにサラワク州があることは事実です。しかしながら国民 (nation)、特に歴史、文化、アイデンティティといった点については、私の場合「マレーシアの中のサラワク」に「？」が点灯します。すでにご発表のあった選挙でのサラワク州のもつ意味を考えるにあたってはもちろん「マレーシアの中のサラワク」は重要です。特にサラワク州の人々の投票行動が与党連合 (BN) を支える重要な力の一つとなっていること、その理由を分析することはサラワクと半島を「複眼的」に考えるためにきわめて重要です。

しかしながら、ことサラワクの人々の半島との関係、とくに非マレー系のダヤックや華人系の人々に注目すると、「マレーシアの中のサラワク」という問題設定は、「所与」もしくは「初期設定」として取り扱う前に先ず疑問符をつけて考えてみたい、というのがあります。ただし「？」の部分を深く論じることは、コメンテーターの今日の役回りではありません。代わりといっっては何ですが、ちょうど先日サラワクでの調査を終えてきたばかりで、面白いことを見聞きしてきましたので、写真とともにご報告します。

ご覧いただいている写真はここ数年のあいだにサラワクでよく見られるようになったステッカーです (写真 1、2)。大きなステッカー、小さなステッカー、Tシャツのプリント、帽子のロゴなどいろいろなバージョンがありますが、基本的には以下の文言と植民地時代のブルック政府の用いた紋章がプリントされています。

Sarawak for Sarawakians

Since 1841

*Dum Spiro Spero*

---

1 第一部のテーマは「サラワク研究のフロンティア」で、佐久間報告、森下報告、竹内報告、加藤報告、金沢報告で構成された。第二部は、祖田報告、鈴木報告、及川報告と、石川コメント、篠崎コメントで構成された。



写真 1



写真 2

これらのメッセージはサラワクの日常いたるところで見ることができます。ステッカーを貼付けた 4WD ピックアップトラックがクチンやミリの街中や伐採道路を走っています。ロングハウスの若者の T シャツには、ロゴは同じでもイバンの Bunga Terung (花) の入れ墨入りのバージョンやサラワク州の地図がプリントされたものもあります。ミリのアポロという海鮮レストランでは、食事代を支払ったあとのレシートと釣り銭をのせたトレイにべったりとこのステッカーが貼ってありました (写真 3)。

このステッカーのメッセージの面白いところは、まさにベネディクト・アンダーソンが『想像の共同体』(Anderson, B. (1991) *Imagined Communities: Reflecting on the Origins and Spread of Nationalism*) で論じたナショナリズムの起源をサラワクの人々がブルック植民地政府に遡り、トンチャイの説いた「ジオ・ボディ」(Thongchai Winichakul (1994) *Siam Mapped: A History of the Geo-Body of a Nation*) の原像をブルック王朝に求めていることです。

私はロゴ入りの T シャツ数枚をクチンの国際空港の近くの華人の店で買いました。街



写真 3 [祖田亮次 1]

のどこでも買えるというものではないようで、市の中心部から車を走らせました。店では、ヨーロッパのフットボールチームのユニフォームやタオルや下着とともにたくさんの種類の“Sarawak for Sarawakians”グッズが売られていました。Tシャツに関しては、コストを下げるためにタイでプリントしてサラワクに持ち込まれていると噂されていますが、真偽のほどはわかりません。

このようなサラワク・ナショナリズムの植民地期への回帰は、サラワクの正統なナショナル・ヒストリーをつかさどる人々、特にマレー人の歴史家などからリアクションが出ています。私は居合わすことはできませんでしたが、州都クチンでは、「植民地化と植民地期を美化するな」といったスローガンのもとで路上デモが行われたということです。これはサラワクの津々浦々に広がるこの合い言葉への対抗運動であるというのが地元の友人の解釈です。

最後に、ステッカーや T シャツにつねにプリントされるブルック植民地政府の紋章に記された言葉 --- 少々意味深なラテン語を紹介してコメントを閉じたいと思います。この“Dum Spiro Spero”というフレーズはローマの哲学者キケロなどが用いたもので、このような意味です。

“While I breath, I hope” 「息をしている限り、私は希望をもつ」

(いしかわ・のぼる 京都大学)